対象地域：宮城県

再生課題：干潟の保全・再生

がもうひがたしぜんさいせいきょうぎかい

蒲生干潟自然再生協議会

再生目標　生態系の上位である渡り鳥にとって良好な湿地環境の保全と空間の適正利用による環境保全活動・環境教育を行う場および多様な主体が交流し、情報を共有する場の創出

○ 事務局
宮城県自然保護課
○ 対象地域
宮城県仙台市
（国指定仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区）
○ 設立日：H17.6.19
○ 構成員数：22人
○ 全体構想作成日：H18.9.16
○ 実施計画作成日：H20.3.29
（震災後、協議会は開催されていない。）
（H27．5現在）

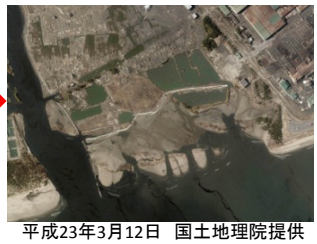
蒲生干潟は、仙台港の建設や河川改修工事によって人為的に形成されたもので、淡水と海水が混じる汽水域となっています。また、国際的にも貴重な渡り鳥の中継地、繁殖地、越冬地であり、特にコクガン越冬地の南限として重要な役割を果たしています。

しかし、平成23年3月の東日本大震災による津波の影響を受け、蒲生干潟の湿地環境は激変しました。このため、渡り鳥を頂点とする生態系にとって良好な自然環境への修復等に向け、どのような取組ができるのか、自然遷移の経過を見ながら、検討を進めることとしています。

自然再生の手法
- 多様な生物を育む干潟の保全・復元
- 湿地を維持する水環境の再生
- 砂浜環境の保全・回復
- 環境保全活動・環境教育の推進および各主体が交流する場の創出

コクガン

平成21年3月



平成23年3月12日　国土地理院提供

平成25年8月26日

対象地域：秋田県

再生課題：森林の再生

もりよしさんろくこうげんしぜんさいせいきょうぎかい

森吉山麓高原自然再生協議会

再生目標　草地造成事業（昭和40年代）以前のブナ林等を再生し、クマゲラの生息に適した環境を拡大する

○ 協議会事務局
秋田県自然保護課
○ 対象地域
秋田県北秋田市
（国指定森吉山鳥獣保護区）
○ 設立日：H17.7.19
○ 構成員数：15人
○ 全体構想作成日：H18.3.31
○ 実施計画作成日：
H18.10.20（第一期／秋田県）
H21.4.27（第一期変更）
H23.3.23（第二期／秋田県）
（H27．5現在）

ブナをはじめとする落葉広葉樹林やクロベ、スギ、キタゴヨウなどの常緑針葉樹林が広がる森吉山麓高原周辺は、本州では数少ないクマゲラの繁殖地となっています。

しかし、昭和40年代から約490haのブナ林が牧草地に改変され、野生動植物の生息・生育域が分断・縮小されました。このため、周辺の森林生態系保護地域や「緑の回廊」と連続する広大な森林を形成し、豊かな自然環境の指標ともいえるクマゲラやそのほかの動物の生息と安定した繁殖に繋げるため、失われたブナを主体とする広葉樹林の再生に向けた取り組みを進めています。

営巣中のクマゲラ

自然再生の手法
- ブナなどの広葉樹の植栽
- 多様な主体の参画による再生の推進

8年経過後の植栽地

対象地域：徳島県

再生課題：サンゴ群集の再生

たけがしまかいいきこうえんしぜんさいせいきょうぎかい

竹ヶ島海域公園自然再生協議会

再生目標　エダミドリイシが健全な状態で生き続けていける環境を取り戻す

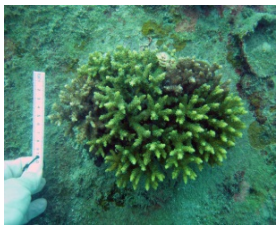
○ 協議会事務局
海陽町
○ 対象地域
徳島県海部郡海陽町
（室戸阿南海岸国定公園）
○ 設立日：H17.9.9
○ 構成員数：52人
○ 全体構想作成日：H18.3.31
○ 実施計画作成日：H23.7.29
（H27．5現在）

阿波竹ヶ島海域公園は、徳島県と高知県の県境に位置し、黒潮分岐 流の影響を受け、透明度が高く、鮮やかな緑色のエダミドリイシの大群集やシコロサンゴなどの生物群集が織りなし、美しい海中景観を形成しています。

しかし、湾入口部への防波堤等の整備により湾内静穏度の向上が図れたものの、外海水との交流量が減少し、透明度が低下しています。

このため、協議会においてやま・かわ・うみのエリアにおいて自然再生活動を進めています。

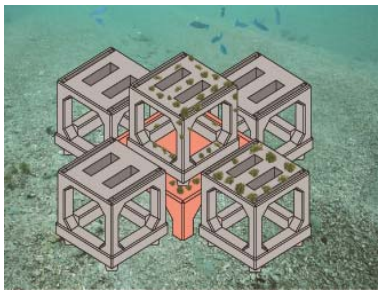
海面に漂うサンゴの卵



卵から育成し、約7年後のエダミドリイシ
（直径約15cm）

自然再生の手法

- ➢エダミドリイシの特性把握
- ➢海域公園周辺の環境改善
- ➢陸域からの環境負荷の軽減
- ➢地域の多様な主体の参加と連携による取り組み
- ➢海域公園と共生する地域漁業の活性化



移植観察フィールドの設置イメージ

対象地域：熊本県

再生課題：二次的草原の再生

あそそうげんさいせいきょうぎかい

阿蘇草原再生協議会

再生目標　さまざまな主体の協働により、阿蘇の多様性の高い草原生態系が保全され、草原景観が維持されるとともに、それらが継続的に管理されるようにする。

○ 事務局
環境省九州地方環境事務所
○ 対象地域
熊本県阿蘇郡南阿蘇村、小国町、南小国町、産山村、高森町、阿蘇市
（阿蘇くじゅう国立公園のうちの阿蘇地域内）
○ 設立日：H17.12.2
○ 構成員数：243（H27.3）
○ 全体構想作成日：H17.12.2（第1期）
H26.3（第2期）
○ 実施計画作成日：
● H21．3．4（野草地）
● H25．3．12（野草地（2期目）
● H23．3．10（草原湿地）
（H27．5現在）

阿蘇の草原は、東西約18km、南北約25km、周囲100km以上に及ぶ世界最大級のカルデラ地形の内外に広がっています。この草原は人々が利用することによって成立したものであり、人々が手を入れることにより維持され、草原景観と多様な動植物が生息・生育する豊かな草原環境が守られてきました。

しかし、農業形態や生活様式の変化などにより、草原維持のための一連の作業を行うことが困難になり、草原面積の減少や荒廃が目立つようになりました。

このため、長い間草原をうまく利用することにより守られてきた草原環境を再生し、次世代へ引き継ぐための取組を進めています。

オオルリシジミ（撮影：寺崎昭典）

ハナシノブ

自然再生の手法

- ➢ 草原維持管理作業の支援
- ➢ 放置された草原の管理作業の再開
- ➢ 損傷・劣化が進んでいる草原環境の修復

輪地切りの作業

野焼き風景

対象地域：沖縄県

再生課題：サンゴ群集の再生

せきせいしょうこしぜんさいせいきょうぎかい

石西礁湖自然再生協議会

再生目標

長期的目標：1972年の国立公園指定時の豊かなサンゴ礁生態系を取り戻す
短期的目標：環境負荷をなくし、現状より悪化させない

○ 事務局
環境省那覇路自然環境事務所
○ 対象地域
沖縄県石垣市、八重山郡竹富町
（西表石垣国立公園内）
○ 設立日：H18.2.27
○ 構成員数：113
○ 全体構想作成日：H19.9.1
実施計画作成日：
●H20.6.13（石西礁湖／環境省）
（H27．5現在）

石西礁湖は、八重山諸島の石垣島と西表島の間に位置する我が国最大のサンゴ礁海域であり、ダイビング、漁業活動等、多様かつ高度な利用がなされている海域であり、地域経済に対して大きな役割を果たしています。

近年、赤土や未処理の生活排水の流出などによる陸域からの環境負荷、海水温の上昇等によるサンゴの白化現象、大量発生したオニヒトデによる食害等により、サンゴは広範囲に影響を受け、国立公園指定時に比べ大きく衰退しています。

このため、陸域からの環境負荷を軽減し、サンゴ礁生態系の健全性回復を手助けすることを当面の目標とし、サンゴ群集の再生に向けた取組を進めています。

マンタ

カクレクマノミ

自然再生の手法

- サンゴ群集の修復（サンゴ幼生の着床誘導および移植）
- 陸域からの環境負荷の低減

着床具の設置

赤土流出状況

対象地域：高知県

再生課題：サンゴ群集の再生

たつくししぜんさいせいきょうぎかい

竜串自然再生協議会

再生目標

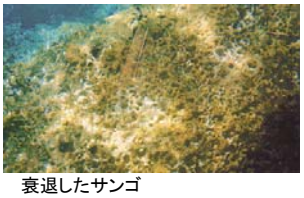
近年衰退の著しいサンゴ群集を主体とする海中景観および海域生態系の保全・再生

○ 協議会事務局
環境省中国四国環境事務所
○ 対象地域
高知県土佐清水市
（足摺宇和海国立公園）
○ 設立日：H18。9。9
○ 構成員数：73
○ 全体構想作成日：H20. 3. 28
○ 実施計画作成日：H22. 1. 28
（H27．5現在）

竜串湾は、高知県土佐清水市南西部に位置し、温暖な黒潮の影響を受けてイシサンゴ類をはじめ、多くの海中生物が生息しています。中でもシコロサンゴ群集はその規模の大きさから学術的にも高い価値を有しています。

しかし、竜串湾では開発や産業の影響による水質悪化およびサンゴ食害生物の大発生等に加え、平成13年の高知県西南豪雨により河川から大量の土砂が湾内に流入したことで多くのサンゴが死滅しました。現在でも湾内は、濁りやすい状況にあり、サンゴ群集を取り巻く周辺環境の悪化や海中景観の著しい衰退がみられています。このため、流域全体の視点から、かつての造礁サンゴ類を中心とした海中景観と生態系を取り戻すための取組を進めています。

エンタクミドリイシ



衰退したサンゴ

自然再生の手法

- 竜串湾内に堆積した土砂の除去
- 河川流域の土砂の発生源対策

湾内に流れ込んだ流木

下層植生が発達していないヒノキ林地

対象地域：島根県、鳥取県

再生課題：汽水湖の自然環境、生態系の再生

なかうみしぜんさいせいきょうぎかい

中海自然再生協議会

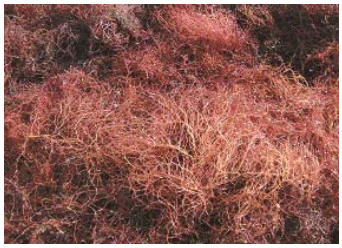
再生目標　豊かな汽水湖の環境と生態系、そして心に潤いをもたらすきれいな自然を取り戻し、かつての中海の自然環境や資源循環を再構築する。

○ 事務局
認定NPO法人自然再生センター
○ 対象地域
島根県松江市、安来市
鳥取県米子市、境港市
（中海とその流入河川（大橋川を除く。）の全集水域）
○ 設立日：H19．6
○ 構成員数：82人
○ 全体構想作成日：H20.11.22
○ 実施計画作成日：H24.3.10
（H27．5現在）

中海は、島根県と鳥取県にまたがる我が国で5番目に広い湖で、斐伊川水系の河口部にあり、宍道湖と一連の汽水域を構成しています。

かつては、高い透明度とアマモ・オゴノリ等の藻場が広がる生物が豊かな湖でした。しかし干拓・淡水化事業等の開発、流入する生活排水、農業・畜産・産業排水の増加により、生物がすみにくくなり、地域住民の意識も中海へ向かなくなりました。

そこで、「よみがえれ、豊かで遊べるきれいな中海」を合い言葉に、豊かな汽水湖の環境と生態系、そして心に潤いをもたらすきれいな自然を取り戻し、かつての中海の自然環境や資源循環を再構築することを目標としています。



オゴノリ（海藻）

自然再生の手法
- 海草類の回収及びその利用
- 浚渫窪地の環境修復
- 湖岸域の保全・再生事業

窪地埋戻し事業

中海のオゴノリ刈り体験

対象地域：宮城県

再生課題：湖沼生態系の保全・再生

いずぬま・うちぬましぜんさいせいきょうぎかい

伊豆沼・内沼自然再生協議会

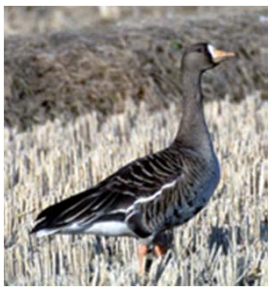
再生目標　昭和55年7月の洪水被害を受ける以前の頃の生物多様性豊かな自然環境を取り戻す

○ 協議会事務局
宮城県自然保護課
○ 対象地域
宮城県登米市，栗原市
（：国指定伊豆沼鳥獣保護区伊豆沼特別保護区）
○ 設立日：H20.9.7
○ 構成員数：36人
○ 全体構想作成日：H21.10.31
○ 実施計画作成日：H22.11.3
（H27．5現在）

マガンの飛立ち（冬）

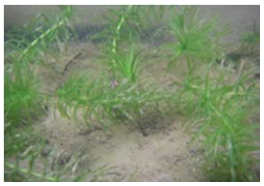
伊豆沼・内沼は，宮城県北部の面積約491haの大小2つの淡水湖沼です。厳冬期でも湖面が全面凍結しないため，マガンやハクチョウ等の渡り鳥にとって重要な越冬地となっており，昭和60年にラムサール条約登録湿地になりました。また、観光だけでなく，かんがい用の貯水や洪水調整の遊水池としても使われ，人々の生活と密接に結びついています。

昭和55年に発生した洪水で，抽水植物や浮葉植物等が長い期間冠水し激減したため，これらの植物に依存するカモ類が減少するなど，沼の景観が一変しました。また，外来魚の食害により，魚類やエビ類も激減しました。このため，渡り鳥を頂点とする生態系にとって良好な自然環境の復元に向け，植物や魚類の保全活動を進めています。



マガン

自然再生の手法
- 生物多様性の保全と再生
- 健全な水環境の回復
- 賢明な利用と環境教育の推進



増殖したクロモ

ハス刈り後の状況

対象地域：岩手県

再生課題：水辺及び里地里山の保全再生

く　ぼ　かわ　い　ー　は　と　ー　ぶ　し　ぜん さい せい きょう ぎ　かい

久保川イーハトーブ自然再生協議会

再生目標　里地里山における侵略的外来種の防除、棚田や雑木林などの手入れを通じて生物多様性を保全し、その重要性を広く発信して地域内外の交流を活性化する。

○ 事務局
久保川イーハートーブ自然再生研究所
○ 対象地域
岩手県一ノ関市
（一ノ関市久保川流域の羽根橋から上流の立石地域）
○ 設立日：H21.5.16
○ 構成員数：30人
○ 全体構想作成日：H21.5.16
○ 実施計画作成日：H21.5.16（ため池）
H22.5.16（広葉樹林）
（H27．5現在）

当該地域は戦後の拡大造林や土地改良事業による水田整備などを免れてきた所です。しかし近年、水田の乾田化や化学肥料・農薬の使用、侵略的外来種などの影響により、ため池を中心に在来の水生生物が減少し、管理放棄された樹林では間伐や下草刈りが行われず、林床の植生が貧弱化しています。

そこで本協議会では、当該地域の残された生物多様性やそれを支える人の営みを適切に評価するとともに、生物多様性を脅かしている要因については、保全生態学を基礎とした科学的なモニタリングと検討に取り除くことで、生物多様性を再生し、恵み豊かな里地里山の自然を次世代に引き継ぐことを目標に自然再生に取り組んでいます。

地域に600個点在するため池

自然再生の手法

- 生物相のモニタリング調査
- 侵略的外来種の防除、耕作放置地の手入れ・ビオトープ造成など
- 調査や防除の結果より手法を模索
- 環境教育を通じた地域内外の交流

蘇ったニッコウキスゲ

自然観察会の様子

対象地域：兵庫県

再生課題：森林の再生、草原の再生

う え や ま こ う げ ん し ぜ ん さ い せ い き ょ う ぎ か い

上山高原自然再生協議会

再生目標　上山高原及び周辺地域において、ススキ草原約45haを維持・整備し、ブナを中心とした落葉広葉樹林の森約306haを再生する。

○ 協議会事務局
兵庫県自然環境課
○ 対象地域
兵庫県新温泉町
（氷ノ山後山那岐山国定公園）
○ 設立日：H22.3.21
○ 構成員数：10人
○ 全体構想作成日：H22.3.21
○ 実施計画作成日：H24.1.13
（H27．5現在）

兵庫県新温泉町の南西部に位置する上山高原とその周辺地域は、扇ノ山のブナ林や畑ヶ平高原など、自然性の高い原生的自然とともに、麓の里に住む人々の営みの中で維持されてきた二次的自然があります。森林性の他、草原性の動植物が生育・生息し、絶滅が危惧されているイヌワシやツキノワグマが生息するなど、貴重で多様な生態系を形成しています。

しかし、スギの植林により原生的自然は減少し、人による管理がなされなくなったススキ草原は、面積が極度に減少しており、ブナ林の復元やススキ草原の維持管理手法の確立などの自然再生事業を実施しています。

扇ノ山山麓のブナ林

自然再生の手法

- ススキ草原の復元
- ブナ林等落葉広葉樹林の復元
- モニタリングの実施

ススキ草原の火入れ

ブナの植樹作業

対象地域：群馬県

再生課題：人と沼の絆の創造と再生

たたらぬま・じょうぬましぜんさいせいきょうぎかい

多々良沼・城沼自然再生協議会

再生目標　「人と沼の絆の創造と再生」をスローガンに、過去の環境の再生をイメージし、「21世紀にふさわしい沼本来の姿」を目指す。

○ 事務局
群馬県県土整備部館林土木事務所
○ 対象地域
群馬県館林市、邑楽町
（館林市と邑楽町にまたがる約80haの多々良沼と館林市の約50haの城沼とその周辺地域。）
○ 設立日：H22.4.10
○ 構成員数：55人
○ 全体構想作成日：H23.5.13
○ 実施計画作成日：H26.1.26
（H27．5現在）

本地域の邑楽・館林地域は、低地の湿原が数多く残存し、湖沼やヨシ原等を中心に、地域特有の生態系を維持してきました。

しかし、近年の開発等により、水鳥の飛来種の単純化や、ブラックバスなど外来魚による被害増加、水生植物群落の変化、水質の悪化などが問題となっており、県や市・町、地域の様々な市民団体等は、これらの課題に対応すべく取り組みを進めてきました。

これらの活動を更に促進し、有機的に結びつけ、真に実効性のあるものに進化させるために、協議会を設立し、豊かな自然を保全・再生・創出・維持管理していくためにはどういった取り組みが必要なのかを関係者全員で考え、共に実践していきます。

多々良沼のタタラカンガレイ

自然再生の手法
- 沼本来の姿を保全・再生する
- 新たなる人々との関わりを創出する
- 地域に生きる証と誇りを、後世に引き継ぐ

多々良沼のヨシ焼き

城沼のハス群落

対象地域：福井県

再生課題：湖沼環境の保全・再生

みかたごこしぜんさいせいきょうぎかい

三方五湖自然再生協議会

再生目標　かつての生きもののにぎわいと、人のにぎわいを取り戻すため、先人の知恵と努力に感謝し、湖と人、人と人の関わりを見直しながら、将来にわたって三方五湖の恩恵を受けることができる誇りある地域社会を実現します。

○ 事務局
福井県安全環境部自然環境課
○ 対象地域
福井県若狭町、美浜町
（三方湖（みかたこ）、水月湖（すいげつこ）、菅湖（すがこ）、久々子湖（くぐしこ）、日向湖（ひるがこ）の五つの湖からなる湖とその周辺地域）
○ 設立日：H23.5.1
○ 構成員数：70団体・個人
○ 全体構想作成日：H24.3.4
○ 実施計画作成日：H25.3.3
（H27．5現在）

三方五湖は若狭湾国定公園、国の名勝、県の鳥獣保護区に指定され、またラムサール条約湿地に登録された貴重な湖です。それぞれの湖で塩分濃度や水深が異なり、多様な環境に応じて魚類など多くの生物が生息しています。

一方で、水質汚濁や生き物のすみかとなる植生帯の激減、オオクチバスやブルーギルなど外来生物の増加など、かつての豊かな三方五湖の自然環境は、急速に損なわれつつあります。

そこで本協議会では、「湖と里をとりまく自然と人のつながりの再生」をビジョンとして、自然再生に取り組んでいます。

たたき網漁（三方湖）

自然再生の手法
- 多様な魚介類がすみ、水鳥が羽ばたく水辺の再生と保全
- 「三方五湖」の自然を活かした地域のにぎわいの再生
- 生活の中で受け継がれてきた湖の文化の伝承

しじみ採り（久々子湖）

田んぼの生き物調査

対象地域：大阪府

再生課題：里地里山の自然環境、生態系の再生

たかやすしぜんさいせいきょうぎかい

高安自然再生協議会

再生目標　絶滅危惧種（ＩＡ類）のニッポンバラタナゴを含む地域固有の生物多様性を維持することで、人と自然が共生して暮らせる持続可能な地域づくりを目指す。

○　事務局
　大阪経済法科大学地域総合研究所
○　対象地域
　大阪府八尾市
　（八尾市高安地域の大阪経済法科大学周辺や中地区、南地区、神宮寺、久宝寺緑地、恩智川とそれに流れ込む小河川。）
○　設立日：H26.1
○　構成員数：25人
○　全体構想作成日：検討中
○　実施計画作成日：検討中
（H27．5現在）

本地域は、古くから谷水と湧水を導水・貯水したため池を利用した農業が営まれ、今でも数多くのため池が残されています。ため池では水質維持のために行われてきた「ドビ流し」によりニッポンバラタナゴに代表される生物多様性豊かな環境が形成・維持されてきました。

しかし、本地域では農業の担い手の減少と高齢化が進み、人手不足により「ドビ流し」が行われなくなってきたため池が多くあります。

そこで、本協議会では、多様な人々による協働により、ドビ流しの実施などにより、ヒトの営みと自然が共生できるための里地里山の再生方法や水辺の伝統的水管理手法等を踏まえた水循環・物質循環の再構築を目指します。

ニッポンバラタナゴ

自然再生の手法

- 高安山の森林整備
- 里地里山の環境保全と再生
- 恩智川とその流域の水質調査
- 自然環境学習と地域と都市の交流

高安山の森林整備

小学生とのため池調査